

安心・安全な居場所をつくる

- 2～3面 セーフスペースとは？
あなたがあなたであることをまると尊重する場
「カルーナよこはま」施設長 倉戸ミカ
- 4～5面 横浜・京都・福岡YWCAの自立援助ホーム
- 6～7面 夏のプログラム報告
- 8面 セーフスペースづくりのガイドブック



The Young Women's
Christian Association

YWCA

10

OCTOBER
2025

No.788

〈第34総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉
キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

Since 1905
120th Anniversary

YWCAと セーフスペース



YWCAの始まりは、

1855年、ロンドンに開所した若い女性のための宿泊施設でした。

仕事を求めて故郷を離れ、

困難や不安を抱えた女性たちが安心して暮らせる居場所であり、
共に祈り、エンパワーし合い、自立するチカラを養う場でもありました。

YWCAが大切にしている「セーフスペース」の原点です。

現在、YWCAは全国23地域と37の中学・高校で多様なセーフスペースを展開。
近年は、困難を抱えた若い女性のための居場所づくりが各地で立ち上がっています。

10月には日本YWCAの新しいセーフスペース事業が始動。

いま改めて、

YWCAの「セーフスペース」をクローズアップします。



YWCAのセーフスペース

あなたがあなたであること
まるっと尊重する場差別も排除も支配も
しない・されない

暴力がなく安全であること、それがYWCAのセーフスペースにおいて何より大切なことです。武力や核による暴力、突き飛ばしたり物を投げつけたりといった身体的暴力がないことはもちろん、無視したり小さな失敗を何度も責めたりといった言葉による暴力や心理的暴力も、相手の自由を奪って支配するような関係性もなしです。これまでにどのような人生を歩んできた人も、どのようなアイデンティティの人も、どのような特性の人も、あらゆる人が差別されず、排除されず、支配もされないということなのです。

あらゆる人がひとりの人として、尊

重されている、受け入れられている、認められていると感じられるよう、場をつくっていくことも大切です。その人の一つの面だけだったり、一つの経験だけだったり、一つの言動だけだったりを切り取って、「この人はこういう人」と自分の基準で一方的に決めつけたり判断したりすることがない。「その人の存在そのもの」「その人がその人であること」をまるっと丸ごと尊重する場、それがセーフスペースです。

その場にいる人どうしの
対話・気付きをカタチに

YWCAのセーフスペースは、共につくっていくものでもあります。誰かほかの人がつくってくれるものではなく、そ

横浜YWCA「カルーナよこはま」施設長

倉戸ミカ

の場にいる一人ひとりが「セーフスペースをつくる」とはどういうことなのかを考え、話し合い、それを実際の行動に移していくしよにカタチにしていく。その場にいる人にとっての安全で安心な場を、その場にいる人たちが、その場で共につくっていくということです。

世界YWCA発行のセーフスペース・ガイドブック（8ページ参照）には、こういったことが「YWCAのセーフ



写真提供／京都YWCA「Y ここ kitchen」

ペースを特徴づける10の基準」として挙げられています。ガイドブックにあることを具体的に現場でセーフスペースとしてつくっていくとしたら、どういうことだろうか？ どういうふうにしたらいいだろうか？ と突き詰めていくと、次々と疑問が湧いてきます。例えば、自分にとっての「心地よい」がほかの人にとっては「心地悪い」となった時、どうやってお互いにとってのセーフスペースへとつくっていくといいんでしょうか。年齢や立場、経験や知識の量に差がある中で、人と人として対等に関わるためには、どういう工夫をしていったらいいのでしょうか。恐らくは、こうしたら正解、こうなったら必ずセーフスペースということはないでしょう。その場その場で、その場にいる人どうし

で、何かふとモヤつと感じたこと、イヤだなと感じたこと、だけでなく、これいいなと感じたことも含めて、まずは口に出して伝えてみる。そこから対話が始まって、そうしてそれぞれの気づきを実際のカタチにしていく、そうすることでセーフスペースへと近づけていく、そういうことなのではないかと思っています。

安心・安全な居場所を 必要とする人々

いま、わたしたちの社会には、差別や偏見や思い込みにもとづく情報やメッセージがあふれています。家族を単位とする法制度や政策、価値観や慣習や社会規範は、わたしたちが自律して生きることを難しくしています。そういった社会の「こつあるべき」に、社会の仕組みによる暴力に、よりさらされやすいのは、社会的により弱い立場に

おかれた周辺化された人たちです。

若い女性も、家や学校といった人の関係性の中で、「自分はここに居たい」とは思えない経験をしやすい状況におかれています。何か意見を言っても無視されたり否定されたりしやすい立場にあります。若い女性という理由で、「何か言っても意味がない」「どうせ誰もわかってくれない」と思われ、沈黙することを学ばされてきています。

セーフスペースを つくるとは

そうした若い女性たちと共にセーフスペースをつくること。それは、彼女たち一人ひとりの日常の中で、つながっても大丈夫な人たちとの安全な関係性の中で、傷つきが、その人の人との関わりによどのような影響を与えているのか理解した上でつながりを共有できる人が

そばにいて、初めてできること。それは、あなたの困難はあなたのせいではなく社会の構造に原因があると伝えてくれる人たちの関わりの中で、「ここに居てもいいかもしれないと思う」というところから始まること。そして、少しずつ「自分は何が得意で、何が得意じゃないのかを知る」「自分の体調や気持ちに気づく」「自分のことを話していると思える」ということを経て、「しんどかったら休んでいい」「自分で決めていい」「失敗したっていい、チャレンジしていい」「困ったら手伝ってっていい」「安全に生きる権利がある」と自分には守られるべき権利があること

を知る。そうして「何か役割を一つ自分で担当してみる」とか、「ほかの人と役割分担しながらひとつの仕事を一緒にしてみる」とか、「声をあげてみる」といったようにエンパワメント体験を重ねていく。そのことによって、若い女性が自分の声を、チカラを取り戻していく。自分なりのリーダーシップの取り方を身につけていく――。

そういうこと一つひとつが、構造的暴力に具体的に抗っていく実践であり、武力や核のない、一人ひとりが自分のありたいように生きることが大切にされる社会をつくりだすことにつながると信じています。



2025年10月末
START

日本YWCAのセーフスペース・カフェ 「ここ*LOCO」が始まります!

日本YWCAは、神奈川県から委託を受けて、通所型支援事業「ここ*LOCO」を始めます。さまざまな困難から生きづらさをかかえる女性たちの居場所です。あらゆる暴力から守られる、言えない思いを声に出せる、温かい食事が味わえる、誰かと出会いつながりあえる、明日を思い描ける――セーフスペース・カフェ。女性たちが安心して過ごせる「もうひとつの居場所」をめざして、この秋、平塚YWCA会館でスタートします。



詳細は
こちらから!



Y W C A のセーフスペース

自立援助ホーム「カルーナ」の取り組み

今日と明日を歩いていける
チカラを得られる場を

京都、福岡、横浜YWCAが運営する自立援助ホーム「カルーナ」。困難を抱える若い女性が安全に安心して生活できる居場所です。ここに暮らす一人ひとりが「生きていい」と感じられるセーフスペースを育むこと。カルーナの花言葉のように「自立」「旅立ち」のための場となることをめざしています。

横浜
YWCA【施設名】
カルーナ
よこはま自分らしさに気付いて
人生を主体的に歩んで

将来に向けた横浜YWCAの活動を考える有志チームの話合いから、自立援助ホーム「カルーナよこはま」は生まれました。自立援助ホームは、児童養護施設の退所後に行き場が見つからなかったり、虐待などさまざまな事情から家族と一緒に暮らすことが難しくかったりする、15歳から20歳の人たちが暮らすための場所です。有志メンバーの一人の「横浜でも自立援助ホームを立ち上げたい」という思いがきっかけ

けとなりました。

それまでも横浜YWCAでは、会館内の「Yカフェパティシヨ」で、働きづらさや生きづらさを抱える女性のための個別就労支援を行ってきました。女性たちとの関わりから、もっと早い段階でその人と関わることができていたらと思うことや、その人だけでなく家族の課題があるケースも少なくありませんでした。メンバーの提案をきっかけに、カフェとは異なる角度から安全

で安心できる居場所を提供したいという思いもあり、自立援助ホーム立ち上げに向けて動くこととなりました。

京都や福岡YWCAが運営する自立援助ホームの見学など含めた準備を重ね、2025年4月に「カルーナよこはま」がスタートしました。開設にあたっては、本当に多くの方から寄付・サポートをいただくことができました。カルーナが大切にしていることは、単に「寝に帰る場」ではなく、安全で心地よく感じられ、安心して過ごせるホームをつくるということです。入居者は、最初に自分の好きなカーテンや食器などをスタッフと買いに行き、居心地の良い空間をつくっていきます。ルールが少ないことも特徴の一つです。入居者との話し合いの中で必要に



「カルーナよこはま」は3階建の一軒家。
居室6部屋と共有のリビングとキッチンを併設する

生まれたての
「カルーナよこはま」を
応援して、
セーフスペースづくりに
参加してみませんか。



横浜YWCA会長 堀添里緒

応じてルールを設定することもあります。基本的には「自分で決める」を重視しています。今後、自分自身で生活していくための練習をするという意味合いもあります。カルーナに集った人たちが、ほっとできる場で「生きていい」と思えること、またその中で自分らしさに気づいて主体的に人生を歩んでいくための場になっていくようにと考えています。



京都
YWCA【施設名】
カルーナひとりで抱えず
必要な時に頼れるように

京都YWCAの自立援助ホーム「カルーナ」は、今年10周年を迎えました。この間、50名近くの少女たちが人生の一時期を過ごしました。

開設した当初は、さまざまなことが手探りでした。この生活の場をどうしていくか、どうしていきたいか、入居者に聞きながら組み立てていきました。安心・安全な場を提供していくこと、入居者それぞれの「どうしたいか」を尊重しながら暮らすことを、今日まで大事にしています。

入居者の中には、これまで安全な場所できちんと生活を送ることが難しかったため、夜に眠ることができない人がいます。そのままの自分を否定され続けてきた経験から、「どうしたいか」という問いかけに自分はどうしたいの



ここに居られるのは原則20歳の誕生日まで。退所後、一人暮らしで自炊ができるように、スタッフと一緒に作っている

かがわからない、といいます。抱えている気持ちを言語化できず、こころの澁となり、内に内に向かってしまうのです。

ひとりで抱えることなく、必要な時に頼ることができるようになってほしい——そのための方法を考える中で出合ったのが、土門蘭さんの『死ぬまでいきる日記』でした。10歳の頃から「死にたい」思いを抱えてきた土門さんが、どうして「死にたい」と思うのか、それに向き合うためにカウンセリングを受け始めた2年間のやりとりと変化の記録です。そこには入居者や退所者に通ずるものがありました。

著者の土門さんを10周年記念イベントの講師に招きました。講演を聴いた入居者が落ち込んだ時「あの時、土門さんが言っていたことかと思った」と話していたことは大きな収穫です。「自分の中に居場所をつくる」という土門さんの言葉は、セーフスペースに通ずるものがあります。受け入れてくれる「誰か」がいること。「わたし」が尊重されていること。ひとりでではなく、必要な時に立ち寄れる安心・安全な場所であり続けられるよう、次の10年にながたいと思います。

京都YWCA職員 高橋夏梨

福岡
YWCA【施設名】
カルーナ
FUKUOKA退所後のつながりこそ
私たちの重要な役割

開所して7年目になります。現在高校生を中心に5名が入居しています。入居者はみな児童相談所を介して「カルーナFUKUOKA」につながります。これまで26名の少女たちと向き合ってきましたが、一人ひとり背景も事情も性格も目指すものもそれぞれです。警察に保護される子、帰ってこない子、夜遊びが止められない子、容赦ない言葉をつづてくる子もいます。

彼女たちは、大人に対する強い不信感を持っていることがほとんどです。大人は信用できない、誰も守ってくれない、なぜ自分だけこんな目に遭わないといけないのか……そんな苦しさから、人間関係を構築することに、とても臆病になっているように見えます。ここにいる間に少しでも「理解しよ



毎日朝夕の食事を用意する。食べる時間は各自に任せているが、たこ焼きの日は賑やかにみんなで一緒に作って食べる

うとしてくれる大人もいる、助けてくれる人はいらる」と思える出会いがあつてほしい、福岡YWCAのみんなが「あなたのことを大切に想っている、応援している」ことを感じてほしいと願っています。私たちが心がけているのは、当たり前のことですが、話を遮らずに最後まで聞く、どんな言葉も受け止める、求められていないことを先回りしてアドバイスしない、干渉はしない、その繰り返しです。少しずつ笑顔が増えていくのを見ると安心しますが、「この対応で正解なのか」「この子にとつてこの環境が適切なのか」「どう向き合えばいいのか」と悩むことの方が多いです。

そして退所後も関係は続きます。困った時に連絡してきたり、他愛のないおしゃべりに立ち寄ってくれたりした時に、彼女たちの成長を見ることができます。彼女たちにとってカルーナが安心できる場所・関係になっていることを感じ、ホームをやっていて良かったと思えるのです。一人で生きていく退所後のつながりこそ、自立援助ホームの重要な役割である思います。

カルーナFUKUOKAホーム長

野崎千代

日韓YWCAカンファレンス

「シスターフッドの豊かさ」をみた

7月20日から23日、「日韓YWCAカンファレンス」が開催されました。12回目となる今年は日本、神奈川県を会場に、韓国から8名、日本から17名が参加。人権・平和・居場所の視点から、若い女性のためのセーフスペースづくりを共に考えました。4日間のプログラムを通して参加者の目に映ったものは――。

心を開いて共に学び
エンパワーし合う

今回のカンファレンスのエッセンスをひとことで表すなら……個人としては「シスターフッドの豊かさ」でした。今回のテーマ「セーフスペース」が、この3泊4日の中にもしっかりと生きていて、さまざまな場面において、お互いの立場に配慮し合いながら、心を開いて共に学び、相互にエンパワーし合う関係性の豊かさに感動を覚えました。

韓国YWCAの先輩方から協働の呼びかけがなされ、日本YWCAの先輩方がそれを深い感謝をもって受け止めて、第1回の協議会が開かれたのが1975年。以来、在韓被爆者問題、教科書問題や日本軍「慰安婦」問題、福島原発からの汚染水問題などを共に協議してきた歴史に立って、今回は「セーフスペース」「生きづらさを抱えた若い女性の支援」を中心に据えた協議会となりました。

ナショナルレポートでは、韓国のYWCAが青少年のために多様な活動を展開していることに感銘を受け、もっと聞きたい、もっと交流を深めて学ばせてもらいたいと感じました。また、昨年末の非常戒厳令に対し市民社会が立ち上がった



際に、若い女性として広場で声を上げた当事者であるユ・ウンビ（柳恩妃）さんの力強い報告に、未来への希望を感じました。

韓日どちらの参加者にとっても最も印象深かったのが、2日目のフィールドワークだったと思います。在日コ

リアン集住地区である川崎市の桜本を訪れ、在日コリアンに対する差別撤廃の運動史や、共生の町づくりについて伺いました。私が最も心動かされたのは、2015年、安保法制反対の運動が広がったとき、在日のハルモニ（おばあさん）たちが、「戦争は絶対にダメ」とデモを起こしたこと。ずっと日本社会から差別や排除を受け、選挙権もないけれど、日本社会が悪い方向に行かないようにと体を張って立ち上がったハルモニたち。

それに対するヘイトスピーチや妨害行動に対して、これまた体を張って、路上に寝転んで抗議したのが日本の若者であったこと。「差別のない人権尊重のまちづくり条例」を生み出した川崎の市民社会の力を感じました。

相手の瞳に映る
自分を発見することで

最終日に出す「声明文」について、日本YWCA側では、「政府に何かを訴えるようなものでなく、共に考えたことや決意を内外に表明するものになる

だろうから、文案の事前作成はやめよう」と考えていました。最後の夜、「文案作成チーム」が集まったとき、韓国側は「ほとんど白紙のたたき台」を見て驚愕していましたが、私たちの意図を汲み、真摯に、深夜に及ぶ文案作りに当たってくれました。

会期中に何度か、会長のチョ・ウニョン（趙恩英）さんを含む何名かの韓国YWCAメンバーと、食事を共にする機会に恵まれました。食事中心らしい軽い話をすればよいものを、ついついお互いの組織課題のことなど、込み入った話をしてしまうことを、「これは世界共通、YWCAのDNAだね」と笑い飛ばしながら。

3日目のプログラムを始めるに当たり、司会を務めた韓国YWCA総幹事のパク・ウンシル（朴恩實）さんの導きで、2人ペアでお互いの瞳を見つめ合うというアクティビティを体験しました。相手の瞳の中に自分を発見することで、お互いを信頼し、より深く関わり合っていくことを願う気持ちが高まったことを今も思い出し、今後も韓国YWCAとの信頼関係・協力関係を大切に育んでいきたいと思いを新たにしています。

日本YWCA副会長 雀部真理

もっと知りたい!

日韓YWCA
カンファレンス
4日間のレポート
配信中!



中高YWCA 全国カンファレンス2025

出会い、つながり、
共に希望へ

全国の中学・高校YWCA部の生徒が一堂に会するカンファレンスが、6年ぶりに対面で開催。卒業生ボランティアのサポートのもと、120名の生徒たちが出会い、講演、ワークショップ、フィールドワークで共に学び、考え、思いを分かち合いました。

もっと知りたい!

中高YWCA
カンファレンス

2025年8月6日～8日 in 東京



異なる音色が集まれば

同志社女子高等学校2年 岡本茉莉

ワークショップでは音楽と平和について学び、考えたのですが、とても普段自分で学ぼうとするにはいたらないであろう視点からのアプローチが沢山あり新鮮でした。そこで印象に残っていることが二つあり、まず一つ目は音楽がもたらす影響はすさまじく、使い方一つで平和にも、そして平和を壊す代物にもなってしまうということを、ヒトラーや、昔日本で使われていた軍歌のようなものを通して学びました。二つ目は、オーケストラは平和の象徴とも言えるのでは、ということです。オーケストラはたくさんの違う楽器と音色でできているのに美しい曲を奏でます。それは一人ひとり違うけど、集まればもっとよいものを創れる、とも言い換えることができるのではと知りました。

共通する「エンパシーの重要性」

フェリス女学院高等学校2年 鳥居 琴

このような機会がなければ出会うことがないような方と出会い、交流できたことはとても貴重な経験になりました。学校紹介では各校のみなさんの普段の学校生活や行事を知り、実際に行ってみたくなっていました。深沢潮さんの講演や、朝・晩の礼拝、そして各フィールドワークの活動及び報告を通じて、「多様性・尊厳・希望」について深く考えさせられました。カンファレンスで学んだことすべてに共通していると感じたのが「エンパシーの重要性」です。自分と異なる人への想像力を働かせて共感すること、目の前にいる他者一人ひとりを大切にすることが、どれほど不可欠であるのかを改めて実感しました。人間一人の力は小さくても、みんながみんなから学び、平和を実現する第一歩になれることを願って行動していきたいです。

卒業してもつながっている

ボランティア・甲府YWCA会員 奥田尚子

中学高校の6年間YWCA部で活動してきた私は、社会について学び、ボランティアに携わりたいと思うようになりました。卒業後も思いは変わらず、今は甲府YWCAで活動をしています。そこで出会った日本YWCA職員の臼井一美さんに背中を押され、参加を決めました。

初日は緊張しましたが、YWCAのスタッフの対応とボランティアの大学生の活躍に力づけられました。また、中高生の頃に関東地区カンファレンスでご一緒した顧問の先生方と再会できたこと、そして母校の生徒たちと共に学びの時を持てたことも励みになりました。

プログラムでは、生徒たちが真剣に学び、考え、行動し、楽しむときは全力で楽しむ姿が印象的でした。それぞれが自分の感じたことを素直に言葉にし、分かち合う姿に、体験を通して得られる学びの奥深さを感じました。学校や地域を越えてつながる力、その場を支えるYWCAの大きさを改めて実感しました。

礼拝とお祈りも豊かな時間でした。ここに集えない人のことも覚えて、みんなで祈りを合わせることで、心で出会えるのだと深く感じ、励まされました。そして今日1日を楽しく過ごした人も、不安や悩みを抱えながら過ごした人も、すべての気持ちを大切に、祈りの中でその思いを委ねながら、また歩んでいけばいいのだと、深く学びました。3日間を通して「つながること」「学ぶこと」「祈ること」の大切さを改めて感じました。プログラムの一つひとつが私にとっても大きな学びと出会いのひとつでした。今後もYWCAの活動を通して、人と人とのつながりの中で、共に歩み、共に学び続けることを大切にしていきたいと思っています。

エンパワーするNGO



Local

Global

セーフスペースづくりのガイドブック好評発行中

Local

みんなにそれぞれの居場所が見つかるように

社会に生きる多様な人々にそれぞれの居場所が見つかってほしい——。そんな思いを込めて、京都・福岡・横浜YWCAが共同制作したガイド。居場所づくりに関わるあらゆる団体や個人に向けて、セーフスペースに必要なことを10のポイントでわかりやすく、親しみやすいカタチで紹介。読む人が一人で、また仲間と一緒に「居場所」について考え、気づき、自らをエンパワーしていけるように構成された実践的な1冊。いまの環境を安心安全な場にしたい人にもお勧めです。



『安心・安全な居場所をつくる
あなたのための
セーフスペースガイドブック』

京都・福岡・横浜YWCA発行／無料

問い合わせ 京都YWCA事務所

TEL. 075-431-0351

ダウンロードできます
(24ページ 44KB)



Global

女性による女性のための居場所づくりに

今月号の巻頭「YWCAのセーフスペース」でも触れている世界YWCA発行のガイドブックの日本語版。あらゆる世代の女性を対象に、セーフスペースのつくり方を詳しく示しています。「尊厳と敬意」「アクセスのしやすさ」「安全とプライバシー」「インクルーシブ」などYWCAのセーフスペースを特徴づける10の基準を中心に、詳しい解説と実施方法、書き込めるワークブックのページなど、84ページに及ぶ充実の1冊。ニーズに合ったセーフスペースづくりに役立ちます。



『私たちのスペース
パワースペース
YWCAのセーフスペース・ガイド』

世界YWCA／発行 日本YWCA／訳
84ページ／2,000円
(PDF版付き、国内送料・税込み)

詳細・購入は
こちらから



ご協力ありがとうございます

賛助費

浅尾治子 阿部方子 荒川知子
五十嵐和子 池上幸子 石井敬子
石橋さなえ 五十畑誠子
磯村美保子 板橋俊子 伊藤眞代
上村眞巳子 江尻美穂子 遠藤真理
遠藤洋子 大澤恵美子 大城美代子
尾寄敦子 河崎純子 河内常男
河野章子 桐村眞子 小泉陽子
川村悦子 小宮一子 金剛静慧
斎藤喜子 坂上信子 佐藤マリ子
沼崎康子 須部道子 諏訪昭子
高橋礼子 武内富貴代 田崎桂子
田中綾 谷川いつみ 俵恭子
土屋幸子 寺島順子 中西トク子
仁木三智子 野澤節子 長谷川恭子
畑山みさ子 服部さち 花盛静子
原田裕子 笹木直子 藤井初子
古川道子 松岡信子 松本幸子
皆川悦子 八木高子 山本容子
吉田亜希 依田良子 渡辺修一
匿名

ピースメーカーズ募金
(平和を創り出す女性のリーダー
シップ養成)
内山康一 遠藤真理 大城美代子
織田光恵 嘉屋陽子 小宮一子
小村明子 斎藤喜子 坂上信子
坂口和子 谷川いつみ 俵恭子
鶴崎祥子 仁木三智子 野崎誠
藤井初子 村上千代子 山本容子
渡辺修一

女子学院中学校・高等学校
日本女子大学高等学校
株式会社フレックスインターナショナル
日ノ本学園高等学校

災害時支援募金
(国内外の災害被災者支援)
遠藤恵美子 遠藤真理 大城美代子
嘉屋陽子 小西明美 小村明子
斎藤喜子 仁木三智子 野崎誠
橋本文子 原田裕子 藤井初子
渡辺修一

(オリーブの木キャンベン募金)
上村眞巳子 梶井洋子 川上哲
朽木美奈子 小宮一子 小村明子
斎藤康代 斎藤喜子 坂上信子
佐藤マリ子 俵恭子 富岡美知子
野々村耀 林育一郎 久宗百合子
藤井初子 吉岡眞紀子 渡辺修一
渡辺美智子

(ウクライナ支援)
遠藤真理 大城美代子 金原隆



嘉屋陽子 吉良保子 小村明子
斎藤喜子 坂上信子 庄子泰子
高橋礼子 俵恭子 寺島順子
中西トク子 久宗百合子
山本容子 依田良子 渡辺修一
福岡友の会
大阪女学院中学校・高等学校
一般社団法人札幌YWCA
公益財団法人福岡YWCA
(パレスチナYWCA支援)
市川真美恵 上村眞巳子 内山佳子
梅林宏道 榎本みづ枝 遠藤真理
大城美代子 嘉屋陽子 吉良保子
小村明子 斎藤喜子 坂上信子
坂口和子 庄子泰子 高橋礼子
俵恭子 寺島順子 中西トク子
中村みゆき 仁木三智子 服部さち
久宗百合子 古川道子 皆川悦子
山本容子 依田良子 渡辺修一
日本キリスト教協議会 女性委員会
世界祈祷日事務所
大阪女学院中学校・高等学校
名古屋YWCA ブッククラブ
(ビルマ/ミャンマー支援募金)
金剛静慧

東日本大震災被災者支援募金
池上幸子 大城美代子 川村悦子
桐村眞子 小村明子 斎藤喜子
沢田修 俵恭子 土屋幸子
中村とよ子 中山真 仁木三智子
野澤節子 橋本文子 眞賀紀子
藤井初子 渡辺修一

日本YWCAユース・エンパワメント
基金
浅尾治子 遠藤真理 大城美代子
小村明子 斎藤喜子 坂上信子
俵恭子 野崎誠一郎 久宗百合子
古川道子 渡辺修一
東洋英和女学院中部宗教委員会
(2025年6月16日～8月15日
敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 Fax. 03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 藤谷佐斗子／偶数月1日発行

旬な情報発信しています メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp にお名前を送ってください／フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp

無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。